

名古屋城三の丸遺跡

R5. 発掘通信

第1号 2023. 6. 13.

◆調査の経緯と経過◆

愛知県埋蔵文化財センターでは、名古屋第4地方合同庁舎整備等事業に伴い名古屋城三の丸遺跡の発掘調査を行っています。調査期間は、A区が令和5年5月から8月、B区は令和6年1月から3月を予定しています。ここでは調査成果を速報としてお伝えしていきます。



上図：調査区の位置

◆遺跡の概要◆

名古屋台地の北西隅に立地する名古屋城、この南側を占める名古屋城三の丸遺跡では、これまでにあわせて20を超える地点で発掘調査が行われています。

現在の愛知県護国神社から通りを挟んだ東側の区域が今回の調査地点です。本町門跡（江戸時代名古屋城本町御門）に最も近かったこの場所は、尾張藩家老渡辺家などの屋敷地でありました。

◆Aa 区の調査◆

調査範囲では北東部にあたるAa区の調査中です（上左写真）。まず江戸時代の面についてはラジヘリによる空中撮影を行いました（中央写真/東から撮影）。見つかった遺構には江戸時代後期の陶磁器や瓦を廃棄したゴミ穴1基のほか、水琴窟すいきんくつと思われるものがあります。底面に穴があけられた常滑窯産の大型の甕かめが天地逆にして埋められ、さらにその上に植木鉢かいぶが被せられています。このような甕が埋まった土坑は計3基が近接して見つかりました。

この場所は渡辺家の東隣の屋敷地に含まれ、しかも北隣の屋敷地との境界に近い裏手の部分であったと想定されます。この遺構が落下する水滴を反響させる水琴窟だとすれば、屋敷裏には庭園があり付近に手水鉢があった可能性も考えられます。

◆調査これから◆

左上写真：
水琴窟が想定される土坑（015SK）
上から撮影
左写真：
同 上部の断面

今回の調査地点北側は平成7年にも調査が行われており、戦国時代那古野城なごやしゅうがあった時代の居館きょかんの堀が確認されています。関連する遺構が今後発見される可能性があり、成果を期待して調査を進めていきます。



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
<http://www.maibun.com>

調査支援



〒581-0034 大阪府八尾市弓削南3-20-2
<https://shimadagumi.co.jp>